

# 外国人に対する日本語教育の推進

2019年度予算額(案)  
(前年度予算額)

804百万円  
221百万円)



## 審議会における検討

### ○文化審議会国語分科会 日本語教育小委員会における検討

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育について、下記5点を取りまとめ。  
①「標準的なカリキュラム案」(2010年5月)、②「活用のためのガイドブック」(2011年1月)、③「教材例集」、④「日本語能力評価」(2012年1月)、⑤「日本語指導力評価」(2013年2月)・「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」(2013年2月)において、日本語教育に関する諸課題について、主な論点を11項目に分けて整理した。
- ・2018年3月には、国語分科会において、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」を取りまとめ。
- ・現在、「日本語教師のスキルを証明する新たな資格の整備」について検討中(2019年度中に結論を得る予定。)。
- ・2019年度以降、「日本語教育の標準等の作成(日本版CEFR)」についての審議に着手する予定。

## 具体的な事業の実施

### 「生活者としての外国人」のための 日本語教育事業

(2018年度予算額  
2019年度予算額)  
85百万円  
46百万円

#### ○地域日本語教育実践プログラム

NPO法人や公益法人等が行う、日本語教室の教育上の課題や広域的活動に伴う課題等を解決するための先進的取組への支援等を実施  
[2018年度実績] 39件 (地方公共団体、NPO等)



#### ○地域日本語教育コーディネーター研修

一定の経験を有し、日本語教育プログラムの編成やその実施に必要な連携・調整に携わっている者等を対象に研修を実施 (毎年20~40名程度)

### 「生活者としての外国人」のための 日本語教室空白地域解消推進事業

(2018年度予算額  
2019年度予算額)  
50百万円  
140百万円

#### ○地域日本語教育スタートアッププログラム

日本語教室空白地域であって、日本語教育のノウハウを有していない地方公共団体に対し、アドバイザーの派遣等の支援を実施  
[2018年度実績] 18件 (主に市町村)

#### ○日本語学習教材 (ICT教材) の開発・提供

日本語教室の設置が困難な地域に住む外国人に対し、インターネット等を活用した日本語学習教材 (ICT教材) を開発・提供  
2019年度は、6言語 (日・英・中・スペイン・ポルトガル・ベトナム) 開発予定

#### ○空白地域解消推進協議会

## 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 (新規)

新たな在留資格の創設等を踏まえ、地方公共団体が関係機関等と機械的に連携し、日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを推進。  
(新規)  
2019年度予算額(案) 497百万円



#### ○プログラムA

・地域の実態調査や実施計画策定のための経費を補助  
・地方公共団体における総合的な体制づくりのため、司令塔となる人材や日本語教室運営などの経費を補助

A = 30件, B = 17件程度を採択予定

#### ○日本語教育の人材養成及び現職者研修カリキュラムの開発事業

(2018年度予算額  
2019年度予算額)  
28百万円  
63百万円

○日本語教育に関する実態調査  
○日本語教育の総合的な推進に向けた調査研究  
○日本語教育研究協議会

日本語教育関係者を対象に優良事例の紹介等を行うイベント  
○日本語教育コンテンツ扶助推進事業  
日本語教育に関するポータルサイト「NEWS」を運用

○日本語教育推進会議  
関係省庁や日本語教育関係団体が意見交換や情報共有を行う会議

## 条約難民及び第三国定住難民に対する 日本語教育

(2018年度予算額  
2019年度予算額)  
43百万円  
44百万円

条約難民及び第三国定住難民に対する定住支援策として  
日本語教育プログラム等を外部に委託して実施